

令和4年度 東京都立八丈高等学校 全日制課程 学校経営報告

1 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動への取組と自己評価

	取組	成果と今後に向けて
学習指導	<p>目標：カリキュラムマネジメントによる魅力化の創造</p> <p>ア 新学習指導要領のもと、学力の3要素に基づいた指導とルーブリック等の評価、系統的な学習や教科横断的な学習、探究学習を研究・開発し、研究紀要や学習の手引き「学びの羅針盤」を活用・改訂し、生徒に配布、保護者の活用を推進する。</p> <p>イ 習熟度別授業の充実化の他、ITやICT教育機器を活用しデータを可視化して定期考査や模試等による学力の定点観測や分析会等で指導の最適化を図る。</p> <p>ウ 反転学習を含めた予習・授業・復習の学習サイクルを定着させるとともに、自習室の学習環境整備、オンライン学習、eポートフォリオシステムなど、生徒の主体的な学習を支援し学び方と学習習慣等を定着させる。</p> <p>エ 図書館機能の充実化と、ICT機器等を活用するなどして、情報教育や進路学習を推進する。</p> <p>オ 校内及び小・中学校の授業参観、授業研究を全教員が行い、異校種相互の系統的な授業力の向上を図る。</p> <p>カ Hawaiiの高校や大学と連携や姉妹校協定を活用したHawaii研修で高度な学び合い・相互交流を推進する。</p>	<p>ア 「学びの羅針盤」を生徒に説明・配布するとともに保護者会等で保護者へ周知を図り、家庭と連携した学力向上や募集対策などに活用し模擬試験結果の向上や島外生の入学を具現化することができた。</p> <p>イ 英語の習熟度別授業展開や、家庭科での少人数制授業等、きめ細やかで丁寧な指導を実践して個々の到達度に応じた授業展開を行っている。また、ITやICT教育機器を活用したデータ分析会を定期的で開催し、指導の最適化を図っている。</p> <p>ウ チームスやフォームス等、一人1台タブレットを活用した反転学習を含めた予習・授業・復習の学習サイクルを取り入れて、生徒の主体的な学習を支援し学び方と学習習慣の定着化を図っている。</p> <p>エ 一人一台タブレットを活用した図書検索機能の充実化を図るとともに、オンデマンド講習等、情報教育や進路学習を推進した。</p> <p>オ 年3回校内で行われる若手教員による授業研究をはじめ、全教員による授業研究を実施した。</p> <p>カ 令和5年度に向けて8月にHawaiiへ実踏を実施するとともに、ハワイ州ワイアケア高校とオンラインによる交流を生徒主体に改善を図り2回実施した。</p>
園芸科・家政科の充実	<p>目標：園芸科、家政科の魅力の充実化と情報発信</p> <p>ア 八高祭や体験授業等で、お弁当レシピ開発、食品製造、野菜、草花の販売等を行い、魅力の発信をする。</p> <p>イ 農業クラブや学校家庭クラブを推進、活性化し、活動成果や魅力を島内・島外に積極的に発信する。</p>	<p>ア 園芸科の生産品の販売や家政科のお弁当販売等、関係機関から高い評価を得た。</p> <p>イ 園芸科では、学校ホームページやTwitter、第31回八丈島産業祭を通じて、教育活動や学校農業クラブの活動を広く発信することができた。また、家政科では、生徒が開発したレシピを島内飲食店と連携協定を結び提供することができた。</p>
生活指導・健康づく	<p>目標：生徒の健全育成と心身の健康、体力の向上の推進</p>	<p>ア ハワイ州ワイアケア高校とオンラインによる交流を2回実施し、文化や生活様式の</p>

り	<p>ア Hawaii 研修や生徒交流、オリ・パラ教育により生徒の健全育成と国際理解教育、心身の健康・体力向上を図る。</p> <p>イ 平和学習、人権尊重、自他の生命尊重など、講和や教職員全員による統一指導により更に育成する。</p> <p>ウ SNS など情報モラルの徹底と、生徒が社会的に自立するための資質・能力を育成する。</p> <p>エ 学校全体で感染症の予防と拡大防止に努める。</p>	<p>異なる人との交流を通して、国際理解教育を推進した。</p> <p>イ 沖縄修学旅行や授業にとどまらず、自他の生命尊重に関する取組として、「SOSの出し方」に関する教育も実施した。</p> <p>ウ 生徒会・委員会活動や学校行事等をおして、生徒が主体的に行動し、社会的に自立するための資質・能力を向上させている。</p> <p>エ 生徒会・委員会を中心とした感染の予防策を実施し、感染拡大防止に努めた。</p>
進路指導	<p>目標：進路実績の向上</p> <p>ア 進路指導部主導で各学年と連携し組織的な進路指導体制のもと、生徒の進路希望を高いレベルで実現する。</p> <p>イ 進路選択に向けた面接指導や講演会、保護者会や保護者との面談等を各学期に実施し、情報共有化する。</p> <p>ウ 進路指導部が中心となり各教科と連携して土曜講習や長期休業期間中の講習、自習体制を確立して組織的、計画的に学力向上を図り進路希望の実現につなげる。</p>	<p>ア 移動教室や修学旅行等において、連携協定を結んでいる産業技術大学院大学や都立大学の訪問を織り交ぜるとともに、オンラインチューター制度を導入して、キャリア教育の充実化を図った。</p> <p>イ 進路選択に向けた面接指導や保護者会や保護者との面談等の授業公開や講演会と日程を重ねるなどの工夫を凝らして充実化を図ることができた。</p> <p>ウ 進路指導部が中心となり、各教科と連携して、冬期開講講座を新設し、長期休業期間中の補習、講習、講座の充実化を図るとともに、オンラインやオンデマンド講座を加えて、更なる充実化を図ることができた。</p>

<p>特別活動等</p>	<p>目標：学校行事や生徒会活動によるリーダー養成</p> <p>ア 地域の社会人や、中学校と連携を図り、競技や発表の実践を通して知識・技能の伸長を図る。</p> <p>イ 学校行事や生徒会活動では、生徒が主役となり生徒自身が企画・運営して達成感と成就感等を経験させる。</p> <p>ウ 読書活動を推進し、国語力や表現力を養わせ、読書意欲の向上と未読率の解消を図るとともに、書評合戦等に積極的に参加する。</p>	<p>ア 特別専門講師や外部指導員等、地域の社会人との連携を図り、知識・技能の伸長を図ることができた。</p> <p>イ 制服標準服化の検討等をとおして、生徒が学校改革の主役となり、生徒自身が学校行事等を企画・運営して達成感と成就感を経験させる。</p> <p>ウ 「1人一冊本を読もう」の取組を継続し、読書活動の推進を図り、図書の貸出冊数は昨年よりも向上した。また、書評合戦に参加し準決勝進出を達成した。</p>
<p>家庭・地域との連携 協力・交流活動、学校広報活動</p>	<p>家庭、地域との密な連携と、戦略的な情報発信</p> <p>ア マスメディアに本校の魅力ある取組の情報を提供し、地域と連帯した広報活動を推進する。</p> <p>イ 学校運営連絡協議会等において、地域からの学校理解、学校評価をいただき教育への支援を定着させる。</p> <p>ウ 学校施設を積極的に開放し、地域のスポーツ活動・文化活動に参画し、生徒の主体的な参加を促進する</p>	<p>ア 「広報はちじょう」や「支庁の風」などの広報誌へ掲載するとともに、移住定住促進協議会広報誌やYahoo ニュース、テレビ番組で取り上げられるなど、情報を発信することができた。</p> <p>イ 全日制、定時制合同で学校運営連絡協議会を実施し、町役場をはじめとする多方面との情報共有を行うことができた。</p> <p>ウ 体育館やグラウンドなど、学校施設の開放を実施し、地域のスポーツ活動等に参画し、生徒の主体的な参加を促進した。</p>
<p>学校経営・組織体制</p>	<p>目標：学校経営参画の推進と組織の活性化</p> <p>ア 八丈町と緊密に連携した危機管理体制を常に見直し、マニュアル化して点検を行い、学校課題等の校内研修を意図的に実施する。</p> <p>イ 企画調整会議や教科主任会議を中心に学校経営を行い、組織的な学校運営、学校経営を行う。</p> <p>ウ 都立青鳥特別支援学校分教室の教育活動を支援する。</p>	<p>ア 生活安全や災害安全など、学校危機管理体制の構築を行うとともに、全・定を統合した学校危機管理計画を更新した。</p> <p>イ 企画調整会議と教科主任会議を二本の柱とした学校経営を行い、学校評価アンケートに記された自由意見からの課題抽出及び成果検証など、組織的な学校運営、学校経営を行うことができた。また、服務事故防止研修を青鳥特別支援学校八丈分教室と連携して年3回実施し、教職員のサービスの厳正に関する周知の徹底を図った。今後も、校長のリーダーシップの下、都民から信頼される八丈高校を目指して学校経営を実践する。</p> <p>ウ 体育祭、八高祭、移動教室に加えて、修学旅行等の合同行事を実施するとともに、調理や書道等の連携授業を展開している。</p>

(2) 重点目標達成率と次年度以降の課題と対応策

◇ 学習指導

- 授業の満足度（肯定的評価）数値目標 令和4年度目標 85%

平成31年度実績	令和2年度	令和3年度	令和4年度
85%	80%	81%	86%
(次年度への課題) それぞれの教員が必ず一人1回は研究授業を実施する。			

◇ 生活指導

- 生徒遅刻 数値目標 令和4年度目標 遅刻15回以上の生徒 3.4%以下

平成31年度実績	令和2年度	令和3年度	令和4年度
8%	3.4%	2.3%	10%
(次年度への課題) SCやYSWを活用して保護者との連携体制の強化を図る。			

- 部活動加入率 数値目標 令和4年度目標 80%

平成31年度実績	令和2年度	令和3年度	令和4年度
77%	77%	80%	80%
(次年度への課題) 外部指導員等を活用して、魅力化の向上を図る。			

◇ 進路指導

- 卒業時の進路決定率 数値目標 令和4年度目標 100%

平成31年度実績	令和2年度	令和3年度	令和4年度
94%	98%	91%	96%
(次年度への課題) オンラインチューター制度やYSWとの連携により進路相談の機会を充実させる。			

◇ その他の教育活動における 数値目標

- 中途退学者（進路変更者） 令和4年度目標 0名

平成31年度実績	令和2年度	令和3年度	令和4年度
6名	3名	1名	2名
(次年度への課題) SCやYSWを活用して保護者との連携体制の強化を図る。			

- 図書の貸し出し冊数 令和4年度目標 一人10冊以上

平成31年度実績	令和2年度	令和3年度	令和4年度
10.8冊	6.0冊	4.0冊	7.0冊
(次年度への課題) 引き続き「1か月に一冊本を読もう」の取り組みを継続し、一人あたり10冊以上の読書を目指とする。			

- 授業公開の保護者及び地域住民の参加者数 令和4年度目標 100名以上

平成31年度実績	令和2年度	令和3年度	令和4年度
110名	152名	88名	143名
(次年度への課題) 島内の諸行事との日程調整を行い、来場しやすい環境づくりについて更なる改善を図る。			